

【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 28-2-009
補助事業名 平成28年度 お年寄りが幸せに暮らせる社会を創る活動 補助事業
補助事業者名 特定非営利活動法人暮らしネット・えん

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

JKA補助事業で作られたグループリビングの運営者を中心に設立されたグループリビング運営協議会において、グループリビングについて継続的に学び合いを進めてきた。その結果、地域に根差したケア事業者が運営するグループリビングは、地域との繋がりを作りながら、居住者が自由に暮らすことができしており、空室率も少なく、地域居住継続を実現できていることが分かってきた。

現在急速に普及しつつあるサービス付き高齢者向け住宅は、生活の質や地域との繋がりが課題となっている。現在の高齢者住宅の現状を踏まえて、高齢者が豊かに暮らすことのできる高齢者住宅とは何かについて問い直し、良質な高齢者住宅の社会的普及の実現に向けた具体策を考えることが求められている。

現在急速に普及しつつあるサービス付き高齢者向け住宅は、生活の質や地域との繋がりが課題となっている。現在の高齢者住宅の現状を踏まえて、高齢者が豊かに暮らすことのできる高齢者住宅とは何かについて問い直し、良質な高齢者住宅の社会的普及の実現に向けた具体策を考えることが求められている。

具体策の一つの回答となりうる高齢者グループリビングは、加齢し身体状況が変化しても地域や一緒に住む仲間との継続的で緩やかな繋がりを可能にし、孤独の解消や生きがいの創出を可能にする。また居住者が購入する生活支援サービスは、居住者の意向に沿って必要なものを選択する仕組みであり、自立を助けるとともに、個人的にも社会的にもコストを下げることを可能性がある。JKAでできたグループリビングはこうした姿をめざして運営しており、これを少しでも多く社会に生み出すことが求められる。

サービス付き高齢者向け住宅の制度を利用し、グループリビングをつくるための良質な汎用性のあるモデルを社会に向けて提示することが目的である。

(2) 実施内容

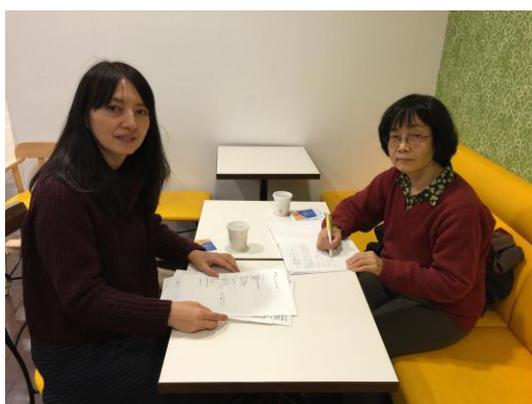
①委員会

現地調査などの際に委員同士が意見交換や情報交換を行い議論を行うため委員会を15回開催した。

(別紙5)



第3回委員会 (12月5日)



第4回委員会 (12月4日)



第5回委員会 (12月9日)



第6回委員会 (1月13日)



第10回委員会 (2月2日)



第11回委員会 (2月3日)

(別紙5)



第12回委員会 (2月6日)



第14回委員会 (2月27日)

*第1、2、7、8、9、13、15回委員会は写真なし。

②調査研究

運営者に対して、アンケートと現地でのインタビュー調査を行った。



狛江共生の家(12月4日)



ほっと館 (12月5日)



おひさまくらぶ(12月16日)



ぐるーぷ藤一番館 (12月19日)

(別紙5)



泉北ほっとけないネットワーク (1月26日)



フェリスモンテ (1月27日)



ことらいふ嵯峨野 (1月27日)



ほのぼのステーション (1月28日)



コミュニティハウスのがわ (2月2日)



いっぷく荘 (2月2日)

(別紙5)



ココファンリビング辻堂(2月3日)



グランドホーム・カンペナウム (2月13日)



ぐるんとびー (2月27日)



楽 (2月27日)

- * ワーカーズホープ、あおいけあ、YWCAサラームの写真はなし。
- * シャロームつきみ野は現地調査なし。

③ワークショップ

2017年3月4日13時半から17時までグループリビングえんの森アトリエにて開催。調査研究を担当した委員が調査報告をし、その後ディスカッションを行った。



ポスター (玄関先)



ポスター (会場入口)

(別紙5)



事業主体 代表 挨拶



委員調査報告



委員調査報告



ディスカッション



会場の様子

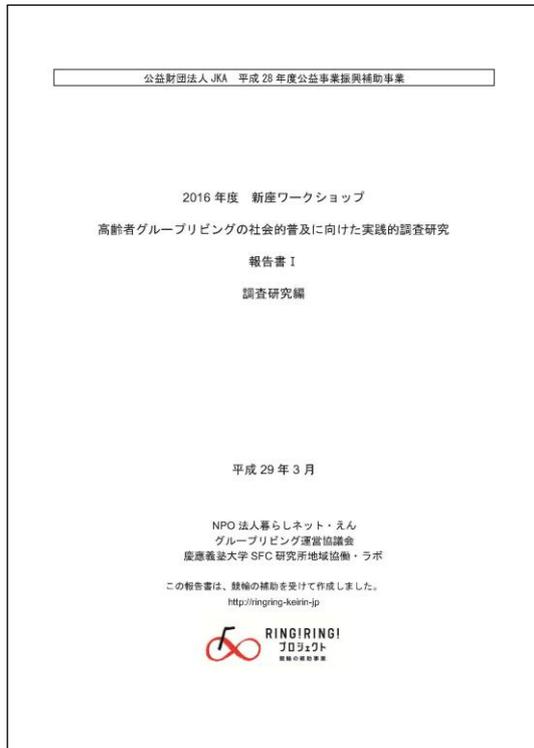
(別紙5)

④報告書

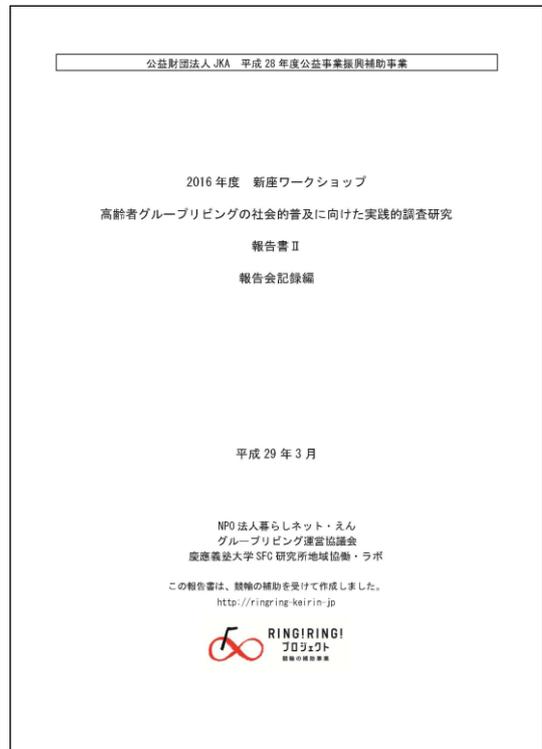
報告書を紙ベースで作成するとともにHPに掲載した。

報告書Ⅰ <http://www.glnet-groupliving.org/files/uploads/2016houkoku1.pdf>

報告書Ⅱ <http://www.glnet-groupliving.org/files/uploads/2016houkoku2.pdf>



2016年度報告書Ⅰ（調査研究編）
90頁・120部・A4版・モノクロ



2016年度報告書Ⅱ（報告会記録編）
53頁・120部・A4版・モノクロ

⑤会報発行

3回発行し、関係者にメールで配信するとともにHPに掲載した。

NO. 13 <http://www.glnet-groupliving.org/files/uploads/glnet13.pdf>

NO. 14 <http://www.glnet-groupliving.org/files/uploads/glnet14.pdf>

NO. 15 <http://www.glnet-groupliving.org/files/uploads/GLnet会報NO.15.pdf>

NO.13
2016年11月15日
発行所・暮らしネット・えん
〒352-0033
埼玉県新城市神2-1-4
TEL:049-460-4150
発行所 小島美里

GLnet 会報

JKA補助事業「お年寄りが安心して暮らす社会を創る活動」とグループリビング運営協議会

グループリビング、新しい調査研究スタート!



NPO法人暮らしネット・えん
小島 美里

2012年度にスタートしたJKA補助対象のグループリビングを訪ねて報告書と訪問記を作成する活動は許年度末をもって無事終了いたしました。

この4カ年の調査活動を通じ「グループリビング的住まい方」は、数ある高齢期の住まいに比べて訪問記のタイトルどおり「自由な暮らし、自分らしく、共に住まう」ものだと共通認識を持つことができました。けれども、JKAによるグループリビング開設補助は終わり、会員グループリビングのような形での新設は見込めません。

そこで、本年度から3ヵ年かけて「高齢者グループリビングの社会的普及に関する研究」と題した調査研究事業を実施し、このグループリビング的住まい方の普及を目指すことになりました。サービス付高齢者住宅や有料老人ホームなどのうち、比較的小規模な居住施設を選び、普及の道筋を探りたいと考えています。

首都圏、関西圏の研究者の協力を得て、いよいよ調査活動を開始いたします。完成まで3年を予定しております。ご協力よろしくお願いいたします。

NEWS

- グループリビング運営協議会会長の西條節子氏は退任され相談役になり、新しい会長にはNPO法人いぶりたすけの星川光子氏が選任されました。
- 今年度のJKA補助事業の事業主体は、NPO法人暮らしネットえんに決まりました。

1

NO.13 11月15日発行 13頁

NO.14
2017年1月5日
発行所・暮らしネット・えん
〒352-0033
埼玉県新城市神2-1-4
TEL:049-460-4150
発行所 小島美里

GLnet 会報

JKA補助事業「お年寄りが安心して暮らす社会を創る活動」とグループリビング運営協議会



**明けましておめでとうございます。
本年もよろしくお願ひ申し上げます。**

**平成28年度 JKA 補助事業
「高齢者グループリビングの社会的普及に向けた実践的調査研究事業」
経過報告**

調査研究の委員会を立ち上げ先駆的な高齢者小規模共同居住の運営者やこれからグループリビングをつくりたい事業者を対象に法人の成り立ちや既存事業、地域性などが異なる中で、どのような運営をされているか、調査を行っています。運営の工夫や課題から学ばせていただくことで、豊かに暮らすことができる高齢者住宅を普及させる道筋を探りたいと思います。

12月末まで船江共生の家（東京都船江市）、ほっと館（東京都江戸川区）、ぐるーぷ一歩館（神奈川県藤沢市）、おひさまくらぶ（宮城県仙台市）の調査を行いました。今後14件の調査を2月末までに終了し、3月4日のワークショップで調査報告を行う予定です。

■委員会メンバー(アイウエオ順)

| | |
|--------|-----------------------|
| 上野穂代 | 神戸女子大学名誉教授 |
| 大江守之 | 慶應義塾大学総合政策学部教授 |
| 小島美里 | NPO法人暮らしネット・えん代表 |
| 近藤綾子 | 慶應義塾大学大学院社会学研究科後期博士課程 |
| 土井原余津江 | 慶應義塾大学SFC研究所上席所員 |
| 中西真弓 | 神戸山手短期大学現代生活学専攻教授 |
| 宮野穂子 | 兵庫県立福祉のまちづくり研究所研究員 |



インタビューの様子

1

NO.14 1月5日発行 8頁

NO.14
2017年1月5日
発行所・暮らしネット・えん
〒352-0033
埼玉県新城市神2-1-4
TEL:049-460-4150
発行所 小島美里

GLnet 会報

JKA補助事業「お年寄りが安心して暮らす社会を創る活動」とグループリビング運営協議会



**明けましておめでとうございます。
本年もよろしくお願ひ申し上げます。**

**平成28年度 JKA 補助事業
「高齢者グループリビングの社会的普及に向けた実践的調査研究事業」
経過報告**

調査研究の委員会を立ち上げ先駆的な高齢者小規模共同居住の運営者やこれからグループリビングをつくりたい事業者を対象に法人の成り立ちや既存事業、地域性などが異なる中で、どのような運営をされているか、調査を行っています。運営の工夫や課題から学ばせていただくことで、豊かに暮らすことができる高齢者住宅を普及させる道筋を探りたいと思います。

12月末まで船江共生の家（東京都船江市）、ほっと館（東京都江戸川区）、ぐるーぷ一歩館（神奈川県藤沢市）、おひさまくらぶ（宮城県仙台市）の調査を行いました。今後14件の調査を2月末までに終了し、3月4日のワークショップで調査報告を行う予定です。

■委員会メンバー(アイウエオ順)

| | |
|--------|-----------------------|
| 上野穂代 | 神戸女子大学名誉教授 |
| 大江守之 | 慶應義塾大学総合政策学部教授 |
| 小島美里 | NPO法人暮らしネット・えん代表 |
| 近藤綾子 | 慶應義塾大学大学院社会学研究科後期博士課程 |
| 土井原余津江 | 慶應義塾大学SFC研究所上席所員 |
| 中西真弓 | 神戸山手短期大学現代生活学専攻教授 |
| 宮野穂子 | 兵庫県立福祉のまちづくり研究所研究員 |



インタビューの様子

1

NO.15 3月30日発行 7頁

(別紙5)

⑥HP

HPを更新し、グループリビングの情報や最新の報告書を、これまでのアーカイブ*とともに掲載した。

<http://www.glnet-groupliving.org/>

*このHPは前年度事業主体だった福島福祉会が作成したHPを更新。

2 予想される事業実施効果

- ・グループリビング運営への意欲と実力がある法人が実際に取り組むことへの支援へと発展。
- ・サービス付き高齢者向け住宅に、この仕組みが有効なことを広報することで、グループリビングを普及することが出来る。
- ・委員が地元の良質なケア事業者と関わりを持つことで、新しい学びができることや活動の連携が期待される。
- ・委員が共同で活動することで、ネットワークを強くでき、グループリビングについて話しあう場を提供できる。
- ・これらを通して、JKA補助で広がりをもせたグループリビングをより発展させることにつながる。

3 補助事業に係る成果物

(1) 補助事業により作成したもの

- 1) 委員会議事録 15回分
- 2) 報告書Ⅰ 調査研究編 A4版 90頁 モノクロ 120部
- 3) 報告書Ⅱ 報告会記録編 A4版 53頁 モノクロ 120部
- 4) 会報 3回
- 5) HP (<http://www.glnet-groupliving.org/>)

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

なし

(別紙5)

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 特定非営利活動法人暮らしネット・えん
(トクテイヒエイリカツドウホウジンクラシネット・エン)

住 所： 〒352-0033
新座市石神二丁目1番4号

代 表 者： 代表理事 小島美里 (ダイヒョウリジ コジマミサト)

担 当 部 署： 事務局

担 当 者 名： 代表理事 小島美里 (ダイヒョウリジ コジマミサト)

電 話 番 号： 048-480-4150

F A X： 048-201-1311

E - m a i l： npoennmk@jcom.home.ne.jp

U R L： <http://npoenn.com/>